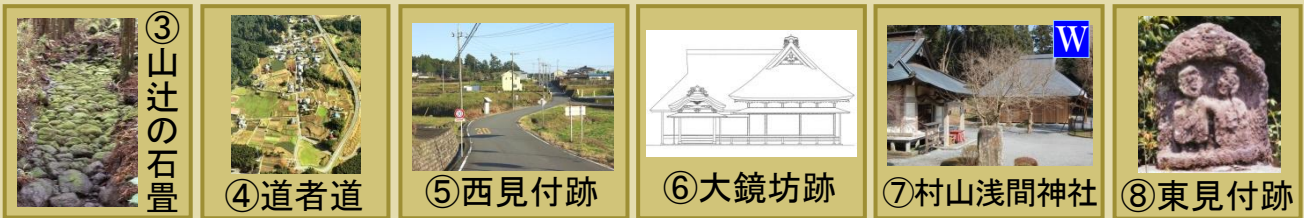


# Dコース <富士根北地区> 道者道を歩くコース

— みどころ —

中世から近世にかけて、村山集落には修験者が暮らし、富士登山の拠点として栄えた。道者(富士登山者)が通った道者道を辿り、富士山信仰の歴史に思いを馳せる。

みどころポイント 富士山信仰 寺社 卍 卍



距離: 約5km 所要時間: 約2時間

マークの凡例: 観察ポイント ● 説明板 ▲ トイレ ♪ 駐車場 P 寺院 卍 神社 卍  
石造物 ㊦ 季節の花 ㊦ ルート — 世界遺産「富士山」構成資産 W

## — コースのみどころ —

### ① 栗倉観音堂

観音堂内には3体の観音像が祀られている。中央の観音像は、舟型の石碑に観音菩薩を浮き彫りにしたもので、「横堂」（「横道」か）や「西国」などの巡礼名と江戸時代の年号が刻まれており、観音巡礼を行った記念に造られたものである。

### ② 栗倉の子安さん

「子安さん」と呼ばれる子供を抱いた石造物がある。かつては縁日に出店が立ち並び賑わったという。

### ③ 山辻の石畳

この道は村山地区の人々にとって大事な生活道路であり、急な坂道が雨で流されないよう石畳にしたと考えられる。この地域には急な坂道が多く、昔は方々に石畳の道があった。山辻には以前「富士山」と記された道標が立っていたが、現在は村山浅間神社境内に移されている。

### ④ 道者道

「道者道」とは、道者（富士登山者）が通っていた道である。昔の富士登山は「六根清浄」を願う修行であった。道者道は、先達（登山のリーダー）に導かれ山頂を目指した道者の姿を思い起させてくれる貴重な道である。

### ⑤⑧ 西見付跡・東見付跡

元村山集落の東西の外れに「東見付」・「西見付」と呼ばれる場所がある。ここは集落の出入口であり、江戸時代末の登山案内図には木戸が描かれている。西見付跡は村山浅間神社から西へ約 550m の所に、東見付跡は村山浅間神社から南に約 200m の所にある。

### ⑥ 大鏡坊跡

江戸時代、村山は村山三坊といわれた大鏡坊・池西坊・辻之坊が管理していた。村山三坊の建物は、江戸時代にはそれぞれ 100 坪を超える見事なものであったという。幕末には、池西坊は村山浅間神社の南に、辻之坊は大鏡坊の西約 300m の所にあった。

### ⑦ 村山浅間神社

国指定史跡「富士山」・世界遺産「富士山」の構成資産のひとつ。江戸時代の村山は、京都の聖護院を本寺とする修験道の拠点であり、その中心は「富士山興法寺」であった。興法寺境内には、大日堂、浅間神社、大棟梁権現社などがあった。興法寺は明治初年の神仏分離令を受けて廃され、大日堂と浅間神社に分離された。現在、大日堂には、大日如来像や廃仏毀釈の際に富士山中より下ろされたとされる仏像が伝わっている。

### ⑨ 村山道の道標

大宮・村山口登山道は東海道から浅間大社を經由し村山に至る。しかし、このルートは遠回りなので、浅間大社に寄らず直接村山に至る近道を使う者が多かった。この近道は、東海道吉原宿（現富士市吉原）から富士市伝法・大淵、富士宮市杉田を経て村山に至るルートである。近道の道筋にはいくつかの「村山道」と記された道標が残されている。

### ⑩ 社領公会堂前石造物

社領公会堂前に、馬頭観音・聖観音・題目塔・庚申塔などがある。これらの石造物は、道路改修や土地造成などで元の場所から移動され、ここに集められたものである。